

第9章 同形表現：区別の判別式

この章では、英文解釈では避けられない多義語である **as** の用法の確認と識別法を確認し、その後、**to** 不定詞の形容詞用法と副詞用法の区別、**be to** 不定詞の意味の判別、〈前置詞＋名詞＋ **doing**〉の **doing** が現在分詞なのか動名詞なのかの判別などを探っていく。

まず、**as** は品詞だけで3つあり、細かく分けると以下ようになる。

(1) 前置詞：**as**＋名詞

- ①「～として」特に〈動詞＋A＋**as**＋B〉の形で
- ②「～の頃」 **as a child** など

(2) 接続詞：**as**＋完全文

- ① 同時 「～すると同時に、～しながら」
- ② 比例 「～するにつれて」
- ③ 様態 「～するように」
- ④ 対比 「～とは違って」
- ⑤ 理由 「～なので」《英》
- ⑥ 原級 「～と同じくらい」 ⇨ 〈as ～ as ...〉の形で
- ⑦ 名詞限定 「(訳さない)」 ⇨ 〈as we know it〉などの形で
- ⑧ 譲歩 「～なのだけれど」 ⇨ 〈C＋as＋SV〉の形で

(3) 関係代名詞：**as**＋不完全文

- ① **As is usual** など「いつものことだが」
- ② **the same ～ as ...** 「...と同じ～」

〈名詞＋ **doing**〉の主なパターンは次の通り。

- ① 動詞＋名詞＋ **doing** 「(名詞) が～しているのを...する」〈第5文型〉
- ② **with**＋名詞＋ **doing** 「(名詞) が～している状態で」〈付帯状況〉
- ③ 前置詞＋名詞＋ **doing** 「～している(名詞)」
〈**doing** は現在分詞 ⇨ 後置修飾〉
- ④ 前置詞＋名詞＋ **doing** 「(名詞) が～すること」
〈**doing** は動名詞 ⇨ 名詞は動名詞の意味上の主語〉